

<報道発表資料>

2019年8月30日

## 「野中到・千代子資料館」のホームページを全面リニューアルしました

—富士山測候所生みの親である夫妻に関する多数の未公開資料などを新たに加え、デジタルアーカイブとして再構築

認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会は、2018年3月に公式ホームページの「バーチャル博物館」に「野中到・千代子資料館」を開設し、富士山測候所生みの親である夫妻に関する資料を収集・公開してきましたが、この度、8月30日「富士山測候所の記念日」に当たり、1895年冬期の富士山頂の観測資料、野中到・千代子の年表、写真など多数の未公開資料を新たに加えて再構築し、全面リニューアルしました。

認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会（以下「NPO 富士山」という）は、広報事業の一環として公式ホームページを中心に SNS などを通じて、富士山測候所に関する様々な情報発信を行ってきました。その中でも富士山測候所を中心とした気象観測の歴史については、NPO 富士山の活動の原点を知る意味で非常に重要なものと位置づけて、発足以来その調査に取り組んできました。

2017年11月、助成金団体からいただいた不思議な縁で、野中到・千代子夫妻の孫にあたる野中勝氏と蔭山幸子氏の知遇を得て、未公開資料を含む多数の画像の提供を受けることになりました。厳冬期に初めて富士山頂で気象観測を行った野中到・千代子夫妻は富士山気象観測の歴史には欠かすことができない鍵となる人物ですが、これまでは新田次郎（本名：藤原寛人、元気象庁測器課長）の小説『芙蓉の人』の情報にもとづいて整理していました。

しかし、この小説は優れたものであっても、あくまで「小説」でありフィクションを含むことが、新たに提供を受けた資料調査の過程でわかってきました。歴史研究においては証拠となる資料の大切さを実感し、この貴重な資料を広く一般に公開したいということから、2018年3月に NPO 富士山の公式ホームページ「バーチャル博物館」内に暫定的に「野中到・千代子資料館」を開設し一部資料を公開しました。その後、会報などによる呼びかけに応じて集まった「芙蓉日記の会」のメンバーによる議論や調査を経て、この度、展示内容を全面的に再整理しリニューアルしたものです。

今回新たに確認された当時の富士山頂での詳細な気象観測データを用いた調査も進められています。その一部は10月に福岡国際会議場で行われる気象学会大会で発表される予定です。資料館には今回公開する140点余りの資料のほかにも大量の未公開資料が在り、その調査研究は未だ続いております。今後整理でき次第、逐次公開してゆき、当館をさらに進化、充実させていく所存です。このホームページをきっかけにして、一人でも多くの皆さまに高層大気観測の実践的先駆者・野中到・千代子夫妻、ひいては富士山頂の観測の歴史を知っていただき、貴重な研究サイトとしての富士山測候所を再認識していただければと思っております。

■野中到・千代子資料館 URL: <https://nonaka-archives.jimdofree.com>



## 参考-1 年表

**1932年(昭和7年)**  
新観測所建設浪景のため、厚、碓子、守と登山  
(9月10日) ※4



\*この時のエピソードが「野中到翁・晩年の富士登山」(永原輝晴)にある。

**1932年(昭和7年)**  
第2次予備調査(淵秀隆、三宅恒夫、梅田三郎、強力数名等、短波通信成功(7月) ※9  
「中央気象台臨時気象観測所」通年観測開始(8月) 所長: 岡田武松兼任(実質的責任者: 関口豊吉) ※9、※5  
第二種年国際協同観測の一つとして山頂東安河原に「中央気象みうら台臨時気象観測所」を設立、一年限りの予算で観測を開始 ※5



1932年(昭和7年)  
満州国建国宣言(3月)

**1933年(昭和8年)**  
野中到から廣瀬潔に宛てた中央気象台による山頂観測継続を訴える書簡  
(3月5日) ※4  
到、碓子を伴い富士山観測所を訪問  
(8月19-22日) ※4



**1933年(昭和8年)**  
三井報恩会から山頂維持費7,000円  
寄贈の見直し。中央気象台 昭和9年  
の観測継続を決定(12月) ※4

1933年(昭和8年)  
日本 国際連盟 脱退通告(3月)

**年表** 野中到・千代子の生涯の出来事を大森久雄編『野中至野中千代子「富士案内・芙蓉日記」』の情報などから作成し、富士山気象観測と世の中の動きを併記して時系列に整理してあり、本資料館のインデックスの役割も果たしています。なお、この調査の過程で、これまで新田次郎の小説の記載には事実と異なっているものが少なからずあることもわかりました。

野中到 1867年(慶応三年)～1955年(昭和30年)、筑前国早良郡鳥飼村(現在の福岡市)生まれ  
野中千代子 1871年(明治四年)～1923年(大正12年)、福岡県那珂郡警固村(現在の福岡市)生まれ

## 参考-2 資料(器械・用具等)

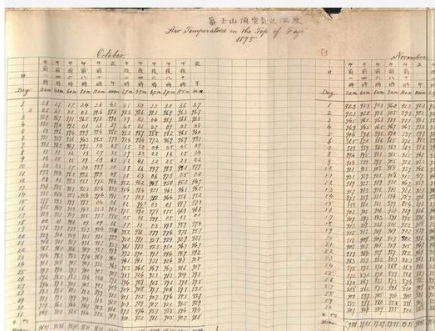


資料番号	M001
資料名	寒暖計
(よみ)	
寸法(cm)	
種類	器械
年代	
備考	野中勝氏所蔵 写真撮影2017.11.26

**資料** アーカイブは「資料」「書籍・出版物」に大別し、「資料」はさらに「器械・用具等」「文書」「写真」に分類してあります。これらの貴重な資料は野中勝様が所有されているもので、野中邸にお邪魔して撮影させていただいたものです。高精細なカラー画像をこれまでの調査に基づく簡単な説明などのメタ情報を付けて公開し、画像は拡大して見ることもできます。

## 参考-3 資料(文書)

### 気温 Air Temperature



資料番号	T003
資料名	富士山頂空気の温度 October (November)
よみ	
年代	1895年(明治28年)10月(-11月)
説明	大きい集計用紙に万年筆手書き 野中勝氏所蔵

**気象観測資料** 野中到・千代子が1895年(明治28年)10月1日から12月22日まで厳冬の富士山頂で2時間毎に計測した気温、気圧、風速・風向などデータと考えられ、これまで存在が確認されていなかった資料です。大判の集計用紙に万年筆手書きで記入されています。本データを使った調査も進められており、その一部は10月に福岡国際会議場で行われる気象学会大会で発表される予定です。

## || 参考-4 資料（写真）



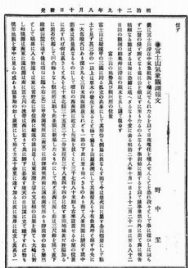
資料番号	P076
資料名	洋装の千代子
撮影時期	1914年(大正3年)頃
撮影場所	御殿場滝ヶ原 野中別宅
撮影者	
裏面メモ	千代子 43才



**写真** 1886年(明治19年)野中到が学生時代に撮った写真から晩年の1947年(昭和22年)頃までのこれまで未公開の写真を多数掲載しています。この写真は1914年(大正3年)頃、御殿場滝ヶ原野中別宅で撮影されたものです。

## || 参考-5 書籍・出版物

### 『地学雑誌』掲載文献



分類NO	L001
タイトル	富士山気象観測報文
著者	野中至
出版社	
出版年月	1896年(明治29年)8月10日
判・頁数	
ISBN	
掲載箇所	地学雑誌8巻(1896/明治29)8号 412-416
所蔵	
備考	



分類NO	L021
タイトル	富士案内 芙蓉日記
著者	野中至・野中千代子(著) 大森久雄編
出版社	平凡社ライブラリー
出版年月	2006年(平成18年)
判・頁数	B6変型判・254頁
ISBN	
掲載箇所	
備考	

**書籍・出版物** 「書籍・出版物」は「著作」「小説」「その他出版物」に分類、「著作」は『地学雑誌』、『気象集誌』、『気象百年史』などに掲載された野中到・千代子の文献が中心で、J-STAGE や国立国会図書館のデジタルアーカイブの該当著作にリンクを貼り、PDFでご覧になれます。年表の拠り所とした『富士案内 芙蓉日記』（大森久雄編）もここに掲載しています。

## || 「芙蓉日記の会」について

「芙蓉日記の会」は野中到・千代子をはじめ、富士山頂気象観測史に関心を持つ有志の集まりです。

メンバー（2019年8月30日現在、順不同）：大森久雄（NPO 会員、編集者）、堀井昌子（NPO 副理事長、医師）、佐藤政博（NPO 監事、元富士山測候所長）、大伏春美（NPO 会員、徳島文理大名誉教授、日本文学研究者）、山本哲（元気象研究所）、溝口克己（元中学校長）、中山良夫（NPO 会員、ホームページ作成担当）

連絡先：土器屋由紀子（NPO 理事、広報委員会）